

テキスト	ルカによる福音書 2章1～7節
教理問答	子どもと親のカテキズム 問26
参考教理問答	ハイデルベルク信仰問答 問15

〈聖書テキストの解説と黙想〉

1. 構造

- (1) 歴史的背景 (1～3節)
- (2) ヨセフとマリアの旅路 (4,5節)
- (3) 御子の誕生 (6,7節)

2. 語句について

- 1節 「アウグストゥス」……もともとは皇帝の権威ある称号。この時には個人名として扱われるほどの有名なローマ皇帝。つまり圧倒的な権力者。当時の記録は、「全世界の救い主」と呼んでいた。
- 2節 「キリニウス」……アウグストゥスの信頼を得た政治家。この人物も伝記に出てくるほど有名。
「住民登録」……国家の主権者が主に徴税目的で、領土内の人口を確認するために度々行われた制度。
- 4節 「ダビデの家」、「ダビデの町」……メシアは「ダビデの子」から生まれるという預言(イザ9:6、エゼ34:23, 24, 37:24等)を参照。「ルカの第一の目的は、イエスがベツレヘムにいたことと、彼がダビデ王家の系列にあったことを確認することにあった」(クラドック『現代聖書注解 ルカによる福音書』)とも言われる。
- 7節 「布にくるんで」……ここでいう「布」は「産着」のこと。
「飼い葉桶」……イザ1:3参照。

3. テキストの背景と方向性

ルカは、ある面では歴史家として歴史的背景を描き出すが、それは現代でいう時代・年代的正確さを求めてのことではない。彼はそれより、神の救いの歴史を描き出す詩人と言える。それは神が私たちの救いのためにご計画された真理を鮮やかに

に指し示す「福音書」記者の務めであった。そのためそれぞれの歴史的名称(固有名詞)は、救い主誕生に集中するための道具となる。

「皇帝アウグストゥス」の時代は、美徳によってもたらされた平和な世界として、その支配の黄金時代として宣伝された。紀元前13～9年には、アウグストゥスに由来する平和のための大きな祭壇が建立された。また小アジアのギリシアの町々は、彼の誕生日(9月23日)を元旦とした。彼は、「全世界の救い主」としてあがめられ、プリエネ碑文には「神の誕生日は世界に良き訪れの始まりを印した」と宣言している(レイモンド・E・ブラウン『降誕物語におけるキリスト』)。

このような世界史の背景の中で、救済史は小さな土地へ向かい、乳飲み子を目指している。当該箇所の前半部分と後半部分の言葉は綺麗なコントラストとそこからの逆説を形作っている。つまり全世界の救い主は、「アウグストゥス」ではなく、この飼い葉桶に寝かされた御子である、と。そしてこれらの言葉の間を結んでいるのがヨセフとマリアの小さな旅路である。この神の言葉の中で、ヨセフとマリアは「初めての子」へと向かっている。

私たちが私たちの言葉は(むしろ私たち自身の存在は)、どこから来てどこへ向かうのかを吟味したい。

〈子どもカテキズムの解説と黙想〉

参考教理問答で挙げられている子どもカテキズム問26は、いわゆるイエス・キリストの二性一人格について扱っている。答の「……イエスさまは、まことの神さまであり、まことの人です」という締めくくりの言葉は、当該テキストとその背景を思い巡らすなら、「イエスさまこそ」という勢いが加味されてよいようにも思われる。

「まことの神」だからこそ、「まことの人」にな

ることができる。「まことの人」だからこそ、「まことの神」へと私たちを導いてくださる。

「真理」や「まこと」が見えにくい時代だからこそ、人はそれぞれに自分のまことの神や人やモノを「所有」しているのかもしれない。

この教理問答の引照聖句の一つヨハネ1:14には、独り子は「恵みと真理とに満ちていた」と書き記されている。旧約の伝統以来、まことは「恵み」と密接に結びついている。恵みは、神の自由のもとに私たちに与えてくださる神の義である（ローマ5:21）。これは御子の受肉によって、具体化された（ヨハネ1:16～18）。私たちは、単なる観念的な空を打つような言葉を信じているのではない。「罪とほろびから救い出してくださる救い主」、肉となった言「イエス・キリスト」を信じ告白している。

教会は、この世界の中でこの歴史的事実を告白し続けていく。

〈子どもたちと共に〉

ある子どもたちを教える立場にある方が、スマホを小さい頃からいじっていた子は、文章を読んでもなかなか想像ができないんです。そして一つの文章を読んだだけでも、疲れた～と言うんですと困った顔でおっしゃっていたことを度々思い出します。

言葉が通じない。分からない。知識としては、理解できるが想像できない。むしろ映像化され、視覚的に訴えやすいものがまことであるような錯覚に踊らされている現実が目前にある。教師も

例外ではない。このような環境の中で、私たちはただ批判するだけでなく、子どもたちと共に歩む姿勢が問われている。

御子は、あらゆるものに逆らって生まれたのではなかった。上記の時代背景の中で、そして「住民登録」に従っている両親のもとに、しかし「聖霊」によって（1:35）誕生した。世にありながら、しかし世とは全く違う視点に立つこと。世の言葉を用いつつ、それがどなたに用いられるのかを注意したい。「全世界の救い主」という言葉も、「神の誕生日は世界に良き訪れの始まりを印した」という宣言も、まさにまことの神であり、まことの人であるイエス・キリストにのみ当てはめられる言葉である。ここに堅く土台を据える時、世の言葉や動きに目が開かれ、それに抗う（プロテスト）勇氣と力が与えられる。それは、小ささの中に、弱さの中に見出される福音である。

ある方は、「教会は、分かりきったかのようにイエス・キリストの御名をみだりに唱えている」と批判された。ときに教会も、教師も大きさの中に、強さの中に自らを見出す誘惑にかられてしまう。そこから祈りをもって御言葉に聴き、自由にされて愛する御子を子どもたちと共に見つめたい。この愛する御子のうちこそ、私たちの居場所があった。宿屋ではなかった。この御子のうちこそ、私たちが憩う安らぎがあることをまず語る者自身が味わいたい。

私たちは、子どもたちと共にヨセフとマリアになって、「初めての子」を目指して歩む旅路を重ねていく。

（片岡 継）

テキスト ルカによる福音書 2章1～7節

(単元のねらい)

まことの神であり、まことの人であるイエス・キリストは、「私たちを、罪とほろびから救い出してくださいの救い主」(子どもと親のカテキズム問26)である。そのお方がどういう状況で誕生されたのか、私たちが置かれている状況と重ね合わせながら、このお方の所にのみ、私たちの憩いの場所があることを覚えたい。

全世界の救い主の誕生

今日はクリスマスですね！ 祝会やプレゼントが待ち遠しいかもしれませんが、この時は、目に見えないとっても大切なプレゼントをもらいましょう。そのプレゼントは、全世界で、どんな状況でも、そしてどんな人でも受け取れるプレゼントです。

うすうす気づいていると思いますが、それは御言葉です。神さまの言葉です。もっと言えば、イエスさまです！ 先ほど読んだ箇所には、まさにイエスさまが誕生された場面が最後に出てきましたね。

最初には難しい名前の人たちも出てきました。この最初に出てくる「皇帝アウグストゥス」という人は、とても偉い人でした。ローマという大きな国の一番偉い人でした。まさに「神」とまで呼ばれていた人です。ですから、この人の誕生日は(9月だったのですが)、お正月になってしまうくらい、みんながその日をお祝いしたのです。祝日になってしまう天皇の誕生日みたいです。

その偉い皇帝アウグストゥスが、全領土の住民に命令を出しました。「住民登録」をせよ、という命令です。これはみんなから税金を集めるために、どれくらいの人たちが、どこにいるかという調査でした。今もみんながどこに住んでいるか、というのはこの町に登録されていますよね。そのような感じです。

ともかく、この時は、この住民登録のために自分の町へ帰らなければなりません。休みの時の帰省ラッシュみたいに。その多くの人たちの

中に、ヨセフさんとマリアさんがいました。もうこの時のマリアさんは、イエスさまを身ごもっていたのです。とても大変な旅だったと思います。そして、住民登録をしたベツレヘムという小さな町で(旧約聖書で預言されていたこの場所で)、イエスさまはお生まれになりました。このイエスさまのベッドは、飼葉桶でした。なぜですか？ それは、「宿屋には彼らの泊まる場所がなかったから」です。

これが今日読んだクリスマスの場面です。みんなも降誕劇や映画などでも見たことがあるかもしれませんが、それを見てイメージすることも大切ですが、今日は最初に言ったように見えないプレゼント、イエスさまを受け取りましょう。テレビやスマホがなくてもこの聖書の言葉が開かれて、聴かれるところは、聖霊なる神さまを通して、イエスさまが私たちの心の中に現れてくださいます。なぜならこのお方こそが、「私たちを、罪とほろびから救い出してくださいの救い主」だからです。この罪もほろびも、すぐには目に見えないことです。私たちの心の状態と深く関わっているからです。

けれども、最初に出てきた皇帝アウグストゥスは、目に見える形で、「救い主」とわかる人でした。長く続いていた戦争(百年にもわたってローマ領を荒らしていた市民戦争)を終わらせることができたり、戦いのための神殿(ヤヌス神殿)を閉鎖したりもしました。ですから、この皇帝のおかげで、国はほろびの危機から救われて、平和が訪れ

たのです。多くの人たちは喜びました。とても素晴らしい皇帝だ！ この方こそ全世界の救い主だ！ と。そうしてまさにこの人は、「神」と呼ばれるようになり、人びとからあがめられたのでした。

でも聖書はそんなこと言ってませんよね。いくら素晴らしい皇帝でも、先生でも、神さまにはなりません。私たちと変わらない、神さまに造られた人です。もちろんだからと言って、こうした人たちの言うことを聞かないということではありません。ヨセフさんもマリアさんもこの皇帝の出した「住民登録」という命令に従いました。私たちは、皇帝や天皇など「人間を」あがめなさい、という命令には従い得ませんが、神さまの御心に適う範囲では、この社会のルールにそって歩んでいます。この時も平和を与えてくれた皇帝の命令だから、ということで多くの方は住民登録に行ったのでしょ

う。そういう私たちにとっても変わらない、平和な日常で、でも一方で皇帝のような偉い人があがめられているような雰囲気の中で、イエスさまがお生まれになりました。私たちが今生活しているこの日常は、どんな雰囲気でしょうか。イエスさまは、全然目立たない、小さなベツレヘムという町の、宿も借りることのできない、そういう状況で誕生しました。「彼らの」と書いてあるとおり、ヨセフさん、マリアさん、イエスさまも「泊まる場所がなかった」のです。

しかしこの小さく誕生されたお方こそ、全世界の救い主でした。皇帝ではありません。この無力に見えるかもしれない救い主こそが、「罪とほろびから救い出してくださる」のです。

どんな人でも、私たちのうちに潜む真っ黒な罪は解決できません。私たち自身でもできません。神さま、イエスさまごめんなさい、と言いながら、また同じようなことを繰り返したりします。この

深いほろびにつながる罪を解決してくださるお方は、ただお一人、イエスさまだけです。

イエスさまは、まことの神さまであるからこそ、まことの人となられました。聖霊によって、罪はない仕方で、しかしヨセフさんとマリアさんの子どもとしてお生まれになったのです。誰にも見向きをされなかったかもしれません。けれども、そういうまことの神さまでありまことの人であるイエスさまだからこそ、見向きもされなかった人に近づくことができたのです。事実この後、主の天使たちは、見向きもされなかった、羊飼いたちに「あなたがたのために救い主がお生まれになった！」(11節)と伝えます。

見た目にだまされてはいけません。偉いと呼ばれる人も、先生も、みんなイエスさまを必要としています。誰もイエスさまなんていらないと言える人はいません。それは、みんな罪人だからです。皇帝もどんな偉い人もやがて死にます。しかし死というほろびを超えて、本当の平和を与えてくださるのは、まことの神さまであるイエスさまだけなのです。私たちはこのお方を信じ、あがめます。このイエスさまが、私たちの罪を身代わりとして引き受けてくださるためにお生まれなさいました。このことは、感謝してもしきれません。住民登録はいりません。場所も、国も関係ありません。どんな状況に置かれた人でも、このお方を信じる人には、救いの平和が訪れるのです！

今このクリスマスの時、この御言葉を通して、祈りの中でイエスさまを見ましよう。このプレゼントを受け取りましよう。ここに留まりましよう。宿屋ではなくイエスさまのもとに。その時、私たちの心にポッと明かりが灯り、イエスさまの光が、私たちの存在を通して輝いてきます。そしてそのことを認め合いながら、本当のクリスマスをみんなでお祝いましよう！ (片岡 継)

[今週の暗唱聖句] ヨハネの手紙一 4章14節

わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、
またそのことを証しています。

ルカ2:1～7

①書いている内容は、つくり話だと思えますか？ それとも事実だと思えますか？

②この夫婦はどんな人たちでしたか？

③みなさんのおうちではクリスマスをお祝いしますか？

④クリスマスで楽しみにしていることはありますか？ それは何ですか？

⑤クリスマスプレゼントで欲しいものはありますか？ それは何ですか？

⑥神様が私たちにくださったプレゼントを挙げてみましょう。

⑦あなたが神様からいただいたプレゼントのなかで、一番すばらしいと思うものは何ですか？

■□案内者のために□■

質問①については、必要であれば、ルカの冒頭を紹介しましょう。

ルカ2:1～7

- ①書いている内容は、つくり話だと思えますか？ それとも事実だと思えますか？

- ②どの王の時代ですか？

- ③登場する夫婦の名前を挙げてください。

- ④この夫婦はどんな人たちでしたか？

- ⑤この夫婦が抱える問題は何でしょうか？

- ⑥みなさんのおうちではクリスマスをお祝いしますか？

- ⑦クリスマスで楽しみにしていることはありますか？ それは何ですか？

- ⑧クリスマスプレゼントで欲しいものはありますか？ それは何ですか？

- ⑨この夫婦は神様からすばらしいプレゼントをいただきました。それは何ですか？

- ⑩神様が私たちにくださったプレゼントを挙げてみましょう。

- ⑪あなたが神様からいただいたプレゼントのなかで、一番すばらしいと思うものは何ですか？